

分類番号

921

テーマ別調べ方ガイド



中国古典詩

について調べる



★ 関連キーワード

- 中国文学史
- 中国古典詩
- データベース

「Paste (はすて)」とは？

ぱっと分かって、すっと頭に入る、テーマ別調べ方ガイドです。みなさんの学習をサポートする、総合図書館ラーニング・サポーター（LS）による作成です。レポート作成の際などにお役立てください

1. イントロダクション

1-1. 「中国古典文学」ならびに「中国古典詩」について

中国古典文学とは、その名の通り、中国で生まれた文学のうち古典の範疇に含まれるものを指します。では、いつの時代までの文学作品が古典の範疇とされるのかというと、一般的には文学革命(1910年代後半)以前の文学が古典であるとされています。文学革命以降の文学は、近現代文学です。中国最古の詩集である『詩経』(紀元前1046年頃にはじまる周王朝の時代の作品が収められる)をはじめとして、すぐれた詩文が、数千年という規模で連綿と生み出され続けてきたのです。

中国古典文学にはたくさんの文学ジャンルが存在しています。代表的なジャンルとしては、詩・賦・散文・駢文・詞・曲・雑劇・白話小説……などが挙げられます。そこからさらに、例えば最も重視されている詩について言えば、近体詩と古体詩に分かれ、また近体詩は絶句と律詩に分かれ……といったふうに、その種別はどんどん細分化されています。詩以外のジャンルについても同様で、それぞれのジャンルが枝葉を伸ばすように種別化されていくということになります。

このように、文学作品をジャンルごとに整理しようとするとき、その総体が樹形図のような様相をみせるのは当然のことです。しかし、中国の文学は、その樹形図を他国のそれと見比べてみると、ある特徴が強くみられることが分かります。それは、先行する文学作品にみえる故事や言語表現を継承して新しい文学作品を作り出そうとする、間テキスト性の特徴です。

なぜ、中国文学では間テキスト性が強いのか。誤解を恐れずに言えば、それは中国には古いものを重んじるという思想が基底にあるからです。その思想に基づけば、当然ながら古くに書かれた文学作品も後世の人々に重んじられる対象、ということになります。例えば最初に挙げた『詩経』などは、中国文学の世界では伝説級の書物として、いつの時代の知識人にも大切に読み継がれてきました。成立してから千何年と経過しても、文学を作る知識人たちが当たり前のようにその内容を暗記していて、自らの文学作品の中にそのエッセンスを落とし込んでいる、という状況は、極めて特殊であるように思われます。何が言いたいかというと、中国の文学において、ある文学作品は、それ以前の文学作品の影響を少なからず受けており、その強い結び付きの連鎖のもとに、中国文学ジャンルの膨大な樹形図が成立している、ということです。また、その結び付きは、例えば詩なら詩のみからしか影響を受けない、というものではなく、他の文学ジャンルからの影響も受けています。通時的な縦のつながりだけでなく、ジャンル間の横のつながりも有しています。中国の文学ジャンルは、それぞれが双方向に強い影響を与えながら発生・発達してきた、とすることができるでしょう。

本パスファインダーでは、このような中国古典文学のうち、とくに「詩」という文学ジャンルに興味をもつ初学者の方に向けて、「まず最初はこれを読むべき！」というような、日本語で著された書籍を多数紹介しています。何といても日本は、中国古典詩とは古来よりの長い付き合いがあります。例えば、『枕草子』に出てくる香炉峰の雪は、中唐の詩人である白居易の詩にうたわれる情景であることなどは、よく知られているところです。近代以降にも、日本には中国文学を研究する優れた研究者が大勢いて、たくさんの高質な入門書や概説書が書かれていますから、ぜひとも学習に活かしていただければと思います。

1-2. 「中国古典詩」を学習するにあたって

では具体的に、初学者にあたる人々はどのような本を読めばよいのでしょうか。ここでは、中国古典詩を学習するにあたっての重要なポイントを、三つに大別してみます。すなわち、中国古典詩の歴史(詩史)についての流れや中国の文化・政治・社会などの背景知識を知ること、詩の読み方を知ること(文法的知識)、詩を読むための工具書(辞書など、読解を補助する役割の本)を扱えること、の三つです。

以降の項目において、2-1. では中国古典詩の歴史についての流れを掴むこと、2-2. では詩の読み方を知ること、3. では詩を読むための工具書を扱えること、についてそれぞれ有用な書籍を紹介しています。ここに記載した書籍を一通り読んでおけば、中国古典詩を学ぶ上での基礎的な姿勢は自ずと身に付くでしょう。

2. 学習用資料

2. では、学習用資料を三つの項目に分けて、推薦図書を紹介しています。

2-1. 入門書・概説書を読む

2-1. は、入門書・概説書といった書籍です。中国古典文学について総合的に論じたものや、時代ごとの「詩」の特徴を扱ったものなどを挙げています。

■ 中国文学入門 / 吉川幸次郎 著

中国文学史の全体像について、平易に解説した本です。中国文学の特色や、代表的な作者・作品ごとの位置づけについて、西洋の文学と比較しながら知ることができます。吉川幸次郎博士は中国文学の泰斗であり、戦後、業界の第一線で活躍し続けました。この吉川幸次郎博士と、あとに出てくる小川環樹博士の両名の著作は、おさえておいて間違いはありません。彼らが著した書籍は、現代でも中国学(中国研究のうち、とくに文学・歴史・思想・言語等を研究する学問領域の総称)を志す者たちに多く読み継がれ、中国学の基礎を築いています。

【書誌 ID= 2003137200】総合図-A 棟5階 研究用図書 089||GA||23

■ 皇帝のいる文学史：中国文学概説 / 浅見洋二、高橋文治、谷口高志 著

この本は、じつは大阪大学中国文学研究室の先生方の手になる書物です。スタンダードな中国文学史の概説というよりは、「公」と「私」、「人為」と「自然」などの独自のキーワードに沿った切り口から中国文学史を捉える、という形式をとっており、極めて異彩を放つ本であるといえます。ユニークでありながら、その切り口(上に挙げた対比するキーワード)はひろく人間社会を見つめる上でも役立つような普遍性を有している点は、注目に値します。中国文学を専修する人以外の人を読んでも勉強になるようなすばらしい本です。

【書誌 ID= 2004364268】総合図-A 棟4階 学習用図書 920.2||ASA

■ 唐詩概説 / 小川環樹 著

唐代を初唐、盛唐、中唐、晩唐の四つの区分に分け、それぞれ代表的な詩人を挙げながら、その時代に詠まれた詩について概説し、唐詩の特徴を平明な文章で非常に分かりやすく述べています。初学者にとって非常におすすめです。小川環樹博士は、先述の吉川幸次郎博士と並んで戦後の中国文学を牽引してきた大きな研究者です。おそらく戦後の中国学者で、これを読んでいない人はいないというほど、多くの方がこの本を読んできました。

【書誌 ID= 2003655212】総合図 A 棟3階 文庫・新書 089 || IB || 381091

■ 宋詩概説 / 吉川幸次郎 著

先に挙げた『唐詩概説』と並んで、中国文学を志す者が必ず読んでいられるのが『宋詩概説』です。宋代に至ると、唐代までの貴族制社会は崩壊し、新しく士大夫階層が台頭しました。社会・文化・政治を主導する階層の交代に伴い、当然生み出される社会・文化・政治も大きく変化します。これを一般に「唐宋変革」とよびます。「唐宋変革」を経て、中国の詩は如何に変化したか。本書では宋代の詩にみえる特徴を列挙しながら、このことを明快に論じています。

【書誌 ID= 2003675524】総合図 A 棟3階 文庫・新書 089 || IB || 331523

■ 元明詩概説 / 吉川幸次郎 著

宋代末期、中国は非漢民族による侵攻を受けます。時代は金・元・明、そして清へ。非漢民族による統一王朝の成立や新しい太平の世を経験し、中国詩は如何に発展してゆくのか。その変化のプロセスを、当時の政治や経済と結びつけながら、これまた分かりやすく説きます。以上の『唐詩概説』・『宋詩概説』・『元明詩概説』は三冊一セットで持つと、唐～明までの詩史を一通り概観できます。

【書誌 ID= 2003680360】総合図 A 棟3階 文庫・新書 089 || IB || 331524

■ 中国古典を読むために：中国語学史講義 / 頼惟勤著 水谷誠編

本書は、著者が早稲田大学で行った講義をまとめたものです。中国古典を読むとき、そこにあるのは当然漢字という文字の羅列です。その漢字の一字一字が、如何に解釈され、如何にして言語として機能してきたのか。つまり漢字・漢語の学に関する知識を語学的観点から授けてくれる入門書です。これは中国語学ではないか、と思われるかもしれませんが、中国文学を読む上ではこうした文字の知識も欠かせません。

【書誌 ID= 2003190325】総合図-A 棟 4 階 学習用図書 820.2||RAI

2-2. 中国文学の読み方を知る

2-2. は、中国古典文学の文法的な読み方について参考になる書籍です。日本では、読解のための手法として、日本の伝統的な訓読の方法と、中国語の音のまま読む方法との二種類が存在します。中国文学界では後者の方が重視される向きがあるように思いますが、どちらも知っておくべきなのでどちらも紹介します。

■ 漢文入門 / 小川環樹, 西田太一郎 著

古代中国語で書かれた文章を読む手段として、日本には訓読という手法が存在します。訓読は古代中国語の語順はそのまま、訓点(返り点や送り仮名など)を付すことで、日本語の語順で読むという、なんとも日本の独創的な読解手法です。日本で中国学を研究する人は、概ねこの手法をマスターしています。文章を解釈するための一手法として、知っておいて損はないでしょう。本書は高校の漢文の教科書よりも詳細に、専門的な角度から漢文訓読の知識を得ることができます。

【書誌 ID= 2003166959】総合図 A 棟4階 学習用図書 919||OGA

■ 漢文の学び方 / 魚返善雄 著

漢文の読み方を解説した本は数多ありますが、どれも堅苦しそうで苦手、と感じる方は多いと思います。そのような悩みを感じさせないのがこの本の魅力です。初版は1953年と古いのですが、2022年に志学社から復刊されました。およそ70年たった現在でも、その内容は分かりやすく、魚返先生のユニークな人柄も伝わってきます。漢文訓読をやさしく楽しく学びたい読者にとって、非常におすすめの一冊です。

【書誌 ID=2004542253】総合図-書庫棟 研究用図書 820||OGA

■ 中国注疏講義 経書の巻 / 古勝隆一 著

中国古典文学を読む上で重要なのが経書です。経書とは、簡単に言えば儒教の経典であり、中国の知識人は経書を熱心に読むことで、儒教の精神を継承してきました。経書はまさに、中国古典の中核にある書物群である、と言えます。経書は古い書物なので、注疏(昔の人が書いた注釈)が付いており、後代の我々が経書を読むときにはふつう注疏を参考にしながら読みます。本書では、注疏を用いて経書を理解するための正攻法が示されており、解説も非常に分かりやすいです。何より、大学の中国学の演習や講義で経験するような学びの過程が書籍の中で体験できる、という感動があります。

【書誌 ID=2004548342】外国図-4 階開架 122||228|[1]

2-3. 作品の選集・体系を読む

2-3. は、中国古典文学の作品群について、日本語訳されたものを読める叢書の紹介です。主要な文学作品にはたいい日本語訳があるので、学習のうえで参照するとよいと思います。

■ 中国詩人選集・中国詩人選集二集(全三十三巻)

中国古典文学上における重要な詩人をとりあげ、代表的な詩を挙げながら解説するシリーズ。特定の詩人について深く知りたいとき、まずはこの本を手取るのが良いと思います。内容が今でも古くさくなく、しっかりとしていながらも、昭和の戦後の熱いエネルギーを感じさせるようなシリーズです。『中国詩人選集』は唐代まで、『中国詩人選集二集』は宋代以降を扱っています。

【書誌 ID=2002110284, 1002161933】 総合図-A 棟 4 階 学習用図書 など

■ 新釈漢文大系(全百二十巻)

明治書院の出版による、古代から宋代までの中国古典を網羅したシリーズ。『論語』や『史記』など思想・歴史書から『文選』などの文学まで幅広く扱っています。58 年かけて刊行された全 120 巻に加えて、近年は詩人編全 12 巻の刊行がスタートしました。原文、書き下し文、訳注、索引がついているため、学習者から研究者まで、漢文に興味のあるすべての読者におすすめできます。大阪大学中国文学研究室の浅見洋二教授も、南宋の陸游という詩人についてこのシリーズから本を出版しています(『新釈漢文大系 詩人編 12 陸游』、明治書院、2022 年)。こちらはぜひとも手に取って読んでみてください(門下生として宣伝)。

【書誌 ID=1002029296】 総合図-A 棟 3 階 学習用図書 など

■ 中国古典文学大系(全六十巻)

平凡社の出版による、主要な中国古典典籍の集成。発刊が 1967 年から 1975 年と、やや古めではありますが、こちらも参考になります。四大奇書とされる『水滸伝』や『西遊記』など、白話小説の翻訳も出ており、痒い所に手が届くような構成です。また、『漢・魏・六朝・唐・宋散文選』『文学芸術論集』などの選集も多く、余暇の楽しみに拾い読みするといった場合の読書にも適しています。

【書誌 ID=1003004702】 総合図-A 棟 4 階 学習用図書 など

3. レポート・論文執筆用資料

ここでは、レポートや論文を書く際に必要な「工具書」と呼ばれる書籍について、デジタルで参照できるものを中心に紹介しています。もちろん紙媒体の辞書やテキストに丹念にあたることは重要です。レポートや論文を書く際には、デジタル上で引いてきた詩の用例であっても、最終的には信用に値する底本にあたって文字の異同がないか等をチェックする必要があります。ですから、全くデジタルだけで研究調査を完遂するのが良いとは言えません。この点には注意が必要ですが、デジタルの調査環境を熟知し、うまく使いこなすことは、大幅な作業の効率化につながりますし、これからの時代に必須のスキルです。

3-1. 電子で参照できる辞書・叢書・詩詞

- JapanKnowledge (<https://japanknowledge.com/>)

JapanKnowledge では、『大漢和辞典』などの辞書・辞典、『新釈漢文大系』や東洋文庫などの叢書まで、中国文学の研究にも役立つ知識が豊富に揃っています。紙の書籍と同じ内容のものがデジタル上でアクセスできるため、非常に便利です。大阪大学の在学生であれば無料で利用可能です(但し、同時アクセス数は10件まで)。JapanKnowledgeにある辞書について、『大漢和辞典』は漢和辞典の最高峰と言われ、親字5万字、熟語53万語を収録しています。漢字や熟語について、日本語での説明が欲しい時には大変有効です。また、『日本国語大辞典 第二版』という日本最大の国語辞典も入っていますので、日本語訳を制作する時にはこちらも活用できます。

- 搜韻 (<https://sou-yun.cn/>)

搜韻は、中国古典の詩詞のデータベースです。膨大な詩詞を収録しているほか、詩話も豊富に閲覧することができます。また、詩語については『漢語大詞典』という中国の大きな辞書を引くこともできます。簡体字と繁体字とのどちらを入力しても結果がヒットするので、日本人でもとても使いやすいのが特徴です。韻についても調べられるので、漢詩を作詩するような人にもうれしいサイト。

3-2. 電子で参照できるテキストデータベース

- 中央研究院漢籍電子文献 (<https://hanji.sinica.edu.tw/>)

中央研究院漢籍電子文献は、台湾の最高学術研究機関である中央研究院が公開しているデータベースです。このサイトでは、中国の歴代王朝の公式の歴史書である二十五史や、儒教の経典である十三経などの重要な文献を検索・閲覧することができます。最初のページで、「**免費使用**」をクリックすると、無料で利用することができます。

- 中国哲学書電子化計画 (<https://ctext.org/zh>)

中国哲学書電子化計画は、中国の哲学書を中心として、幅広い時代の文献を公開するデジタルライブラリーです。収録文献は、「先秦兩漢」と「漢代之後」との二つに分かれています。「先秦兩漢」では、その当時に著された哲学書をほぼ収めています。「漢代之後」には、例えば『世説新語』『文心雕龍』『芸文類聚』といった哲学書以外の文献も多数閲覧することができます。

- SAT 大正新脩大蔵経テキストデータベース (<https://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/>)

大正13年から昭和9年にかけて、仏教の経典や論書を民間の手により総集したものを「大正新脩大蔵経」と言います。それをデジタル上で利用できるようにデータベース化したものがこのサイトです。本文検索はもちろんのこと、その翻刻(文字起こし)が本当に正しいかどうか、現物の画像データを見て影印を確認することもできます。

- 全国漢籍データベース (<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki/>)

京都大学のデータベースで、日本全国の各種研究機関に所蔵されている中国の古典籍を検索することができます。中国大陸では、歴史上の戦乱や火災などが原因で古典籍が散逸してしまうということがよく起こります。そのため現代では既にこの世から消滅して二度と見ることができない典籍が少なくはないのですが、実は歴史上のどこかのタイミングで日本に伝来して大切に保管されていた、ということがままあるのです。ですから中国の古典籍を探索する場合には、日本の漢籍のデータベースを調べてみるというのも、一つの大きな手掛かりとなるのです。

3-3. レポート作成にあたり、持っておいて損はないであろう一冊

- デジタル時代の中国学リファレンスマニュアル / 漢字文献情報処理研究会編

目次を見てもえれば瞭然としていますが、中国学を研究する上で必要な文献にあたる方法が、ジャンルごとに詳述されています。研究論文の調べ方から、仏典・道教経典・社会・制度・文学・芸術などに至るまでバラエティーに富んでいます。従来のアナログな文献調査法から、現代に必要なデジタルな手法まで、幅広くカバーしていますのでおすすめです。

【書誌 ID= 2004515425】総合図-A 棟 3 階 学習用図書 222||KAN

本文中で紹介している図書・雑誌について

図書名・雑誌名の後ろに「書誌 ID」(10桁の数字)の記載があるものは大阪大学で所蔵しています。この10桁の数字で大阪大学 OPAC(蔵書検索システム)が検索できます。

